

令和3年度 調布市立第六中学校 学校評価報告書

学校の教育目標		
○自ら学び、考える生徒      ○命を大切にする生徒      ○何ごともしやめぬ生徒		
目指す学校像(ビジョン) 例) 学校像, 教員像, 児童・生徒像		
○「自ら学び、考える生徒」→生徒一人一人の学ぶ意欲を高め、学力向上を図る学校		
○「命を大切にする生徒」→心の教育を充実させ、生命を尊重し、共に助け合う態度を育てる学校		
○「何ごともしやめぬ生徒」→豊かな体験活動を充実させ、心身ともに健康に生きる態度を育てる学校		

調布市立学校における共通した領域 <短期的な経営目標>

	1 豊かな心(徳)	2 確かな学力(知)	3 健やかな体(体)
自己評価	(1) 具体的な取組	(1) 具体的な取組	(1) 具体的な取組
	①全体計画及び年間指導計画の策定・改善(通年)、道徳科授業の充実(年35時間) 評価 B	①少人数・習熟度別指導(1~3年数学・英語)、読書週間(2回)、数学ステップアップ教室(1回)、漢字検定(3回)・英語検定(3回)、英語検定直前自習サポート(6回) 評価 B	①オリンピック・パラリンピック教育の指導計画の策定・改善(通年)、体力向上週間(3月)の取組、部活動加入率(93.3%) 評価 B
	②全教員による巡回指導(毎朝・通年)、六中いじめ防止対策基本方針(4月)、SNS学校ルール(5月) 評価 B	②校内研修会(授業改善、ICT、特別支援教育等)、生徒による授業評価(全教科2回)、学校公開(1回)と保護者アンケート 評価 A	②喫煙防止教室(2月)、食育(通年、給食便り)、食物アレルギー事故防止研修会、新しい生活様式への意識啓発(通年・随時)、SCによる全員面接(1・2年) 評価 A
	(2) 成果(数値目標に対して) 評価	(2) 成果(数値目標に対して) 評価	(2) 成果(数値目標に対して) 評価
自己評価	①「私は、学校に行くのが楽しい。」の質問項目では、肯定的評価が生徒85.8%、保護者87.9%である。コロナ禍でも前向きに学校生活を過ごしていることが分かる。 評価 A	①授業への集中、忘れ物、宿題忘れ、遅刻等の授業規律について、「私は、授業に意欲的に取り組んでいる。」の質問項目では、肯定的評価が生徒89%である。 評価 A	①部活動加入率93.3%であるが、コロナ禍による活動中止が長期化した。 評価 C
	②あいさつ運動、六中いじめ防止対策基本方針に基づくいじめの未然防止①全体計画及び年間指導計画の策定・改善(通年)。「私は、六中のきまりを理解し、守っている。」の質問項目では、肯定的評価が生徒88.3%、保護者93.1%である。落ち着いた学校生活であることが分かる。 評価 A	②校内研修会(授業改善1回、ICT10回以上、特別支援教育2回他)、「教材やプリントなど、授業に様々な工夫をしている先生が多い。」の質問項目では、肯定的評価が生徒94.2%、保護者57.8%である。 評価 B	②講演会後の生徒による授業評価(感想文等)で肯定的評価が概ね多い。 評価 A
学校関係者評	コロナ禍で中止・変更を余儀なくされたが、肯定的評価が概ね多く、引き続き可能な限り教育活動を継続してほしい。また、課題については組織として検証し改善してほしい。	コロナ禍で中止・変更を余儀なくされたが、肯定的評価が概ね多く、ICTのスキル向上についても引き続き研修を継続してほしい。必要があれば、支援をするので、地域の教育力として活用してほしい。	コロナ禍で中止・変更を余儀なくされたが、肯定的評価が概ね多く、引き続き可能な限り教育活動を継続してほしい。また、課題については組織として検証し改善してほしい。

学校の特色を生かした領域 <短期的な経営目標>

	4	5	6
自己評価	(1) 具体的な取組	(1) 具体的な取組	(1) 具体的な取組
	①指導計画の改善(5月末)、検証(2月)、就職支援ナビゲーターによる授業(12月) 評価 C	①地域学校協働本部との連携協力(通年)、数学ステップアップ教室(1回)英語検定直前自習サポート(6回) 評価 B	
	②校内委員会(年12回) 評価 A		
	(2) 成果(数値目標に対して) 評価	(2) 成果(数値目標に対して) 評価	(2) 成果(数値目標に対して) 評価
自己評価	①参加した生徒による授業評価(感想文等)で肯定的評価が概ね多い。 評価 C	①コロナ禍による活動中止が長期化した。「授業や行事などで、地域の人たちから指導してもらったことがある。」の質問項目では、肯定的評価が生徒56.2%、保護者60.7%である。 評価 B	
	②年10回程度実施し、教員による自己評価で肯定的評価100%である。 評価 A		
学校関係者評	コロナ禍で中止・変更を余儀なくされたが、肯定的評価が概ね多い。	コロナ禍で中止・変更を余儀なくされたが、肯定的評価が概ね多い。	

人材育成・組織運営

自己評価	①副校長、管理職選考(B選考)合格者に、危機管理や服務面のトレーニングを積み、校長を補佐する立場として育成する。 ②主幹教諭2名、主任教諭2名の受験によるミドルリーダーを育成する(通年、随時)。 ③全教職員の「人材育成プログラム」を作成(5月)、職務実績記録や業績評価・昇給推薦の根拠資料とする。
学校関係者評	コロナ禍で中止・変更を余儀なくされたが、概ね良好であり、引き続き可能な限り教育活動を継続してほしい。また、課題については組織として検証し改善してほしい。

中期的な経営目標の達成状況

学校評価の「私は、学校に行くのが楽しい。」の質問項目では、肯定的評価が生徒85.8%であり、コロナ禍でも前向きに学校生活を過ごしていることが分かる。保護者への同じ質問項目「子供は学校へ行くのが楽しいようである。」では、肯定的評価が保護者87.9%であり、生徒との差はない。今後も「通うのが楽しくなる学校」を目指した教育活動の充実に努める。

次年度の重点課題

コロナ禍で学校行事や部活動について中止・変更を余儀なくされたが、各教育活動のねらいを明確にしなが、柔軟かつ適切にニューノーマルな教育活動を継続していく。特に、基づく1人1台モバイル端末を活用しながら、思考力・判断力・表現力等の育成を目指した授業改善に努める。